

徳一菩薩に学ぶ会  
記念講演会

# 徳一と最澄

## 分断を越える対話

徳一菩薩坐像 所蔵者（勝常寺）  
写真提供者（湯川村教育委員会）

比叡山延暦寺 最澄  
伝教大師像

平安時代の初期

徳一と最澄は

何を、どう

論争したのか？

注目の仏教学者・

師茂樹氏が示す

徳一を知るための

新しい見取り図

2024 8/25 日

13:30~15:30 (開場 13:00)

会場／福島県立博物館講堂

参加費  
無料

入場先着 200名  
(事前申し込み不要)

近著／

講師／ 師 茂樹 MORO Shigeki

花園大学文学部教授

1972年生まれ。猪苗代町出身。

早稲田大学第一文学部卒業、東洋大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。

博士（文化交渉学、関西大学）

著書『論理と歴史——東アジア仏教論理学の形成と展開』（ナカニシヤ出版）、

『大乗五蘊論』を読む』（春秋社）ほか



# 1,200年前の論争が新たに動き出す

## ■ 講演会の概要

本講演会は 2021 年に『最澄と徳一 仏教史上最大の対決』を上梓した師茂樹氏を招いての講演会です。平安時代の初期、会津と京都にいた二人の僧、徳一と最澄が繰り広げた論争を中心にお話しいただきます。

書籍ではアジアにまで視座を広げて、当時の仏教界の勢力図を描きながら、二人の仏法の系譜を辿ることで、彼らの論争が 1,200 年前の一時的なものではなく、仏教史の中で重要な位置を占めるものであることが明らかになります。

そして、決して相容れない主張をしていた双方が対話を行うためにとった因明（いんみょう）という論争方法の解説がなされ、これまで謎の多かった徳一菩薩を知るための新しい視点が拓けます。二人の論争から読みとれる現代的なメッセージとは？今なぜ、徳一菩薩に注目するのか？徳一菩薩と縁深い会津の地で、会津出身の師茂樹氏に伺います。

※当日は資料の配布もありますので、未読の方もぜひお気軽にお越しください。

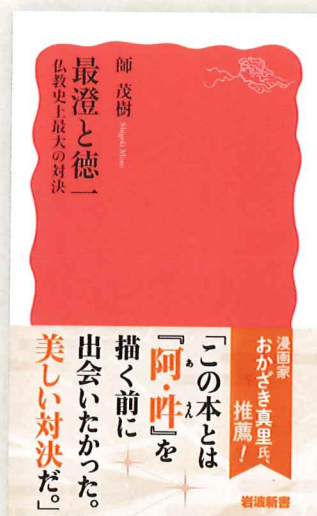


### 最澄と徳一 仏教史上最大の対決 (岩波新書 2021)

これは問答か、謗法（ほうぼう）か。

平安時代初期、天台宗の最澄と法相宗の徳一が交わした批判の応酬は、仏教史上まれにみる規模におよぶ。相容れない立場の二人が、五年間にわたる濃密な対話を続けたのはなぜだったのか。彼らは何をどのように語り合ったのか。「真理」を求める論争を解きほぐして描く、仏教史の新たな見取り図。

(本書紹介文より引用)



主催／徳一菩薩に学ぶ会（問い合わせ先：築田 090-4555-7347）

共催／福島県立博物館・会津坂下町埋蔵文化財センター友の会・歴史春秋出版(株)

後援／会津ジャーナル・如法寺・徳一ほとけの学校